

創立70周年記念メッセージ

元事務局長 富永 安昭

70周年おめでとうございます。先日、切り替えの手続きに来られた銀行の女性担当の方とよもやま話をしていたら、娘さんが今年の10月に結婚して、北海道農家に嫁がれるとの話。農業をやるとは珍しく大変だろうが頼もしいなと思い聞いてみると、県立大学環境共生学部の卒業生で一度は普通のところに就職したが、大学で学んだ農業に関わることをやりたいと思い農業法人に転職。そこで北海道から研修生で来られた方と出会い、今回一緒になられるとのこと。お母さんである担当の方が、「私も孫ができることになります。」と、とても喜んでおられました。在学年次が丁度私が県庁から事務局長として大学にお世話になっていた頃で、私も古賀先生（当時副学長）に誘われ参加した阿蘇の野焼きや輪地切りやらにも娘さんも積極的に参加してたので、懐かしく、また「もやいすと育成プログラム」活動が若者に大きな影響を与えたのだなど改めてその意義の大きさを感じました。私も、遠隔の地に嫁ぐ娘さんの今後の新しい生活にお母さんとともにエールを送ります。

私もそうだったけど多くの学生が特に確固たる将来目標もなく漫然と大学に入り卒業しているようでも、大学生活は、確かにその人の中にしっかり種を播き、人によってはそれが芽を出す時があるということかなと改めて思いました。

今仕事を離れて、自分の時間を大切に過ごしていると、昔なら目前にやらなければならないことや忙しさで見過ぎていたような小さい事でも何か感じるが増えてきたように思います。県立大学が若い芽の発信基地として今後益々その力を発揮されることを期待します。

県立大学の思い出

元事務局長 岡本 哲夫

平成 25 年から 2 年間、事務局長として勤務しました。その頃、思っていたのは「学長とのコミュニケーションは、日本一では？」ということです。というのは、当時の古賀学長と毎日昼食に出かけていたからです。学長室が奥にあるので、恐縮ながら、昼休みになると学長が「行きましょうか」と誘いに来られます。店への行き帰り、料理を待つ間は、世間話から学内外の話題まで非公式ミーティングの時間でもありました。学長と食事をしながら「失敗の本質」という本が思い起こされました。書中、旧日本軍の組織的欠陥の一つとして、コミュニケーション不足が上げられています。一方米軍は、幕僚がランチやコーヒーを共にし、意思の疎通を図っていたとあります。五百旗頭理事長とは、テニスの対戦もさせていただきましたが、理事長の軽快なプレーに感嘆したものです。

仕事では、サービスの対象が、学生・先生であり、その反応が直に返ってくることに、やりがいを感じました。ある時、学生アンケートを見ると学食の改善要望がありました。調べてみると、毎年の要望でしたが「値段や学生であることを考えると我慢すべし」という意見が大勢でした。しかし、自分の学生時代を振り返っても、仲間との昼食は、大学での大きな楽しみでしたので、学長に相談し、学食改革に取り組むことにしました。計画に着手すると、職員はじめ食関係の先生など多くの皆さんが協力してくれて、建設的な提案もいただきました。そうした意見を踏まえて、一人用のカウンター席や大型テレビの設置、ファサードやサインの改良を行い、食堂の運営業者も提案方式で新たに選定しました。併せて、学内の隅にあった売店を学食二階に移設し、学生の利便を図りました。完成後の新食堂で、談笑する学生の姿を見た時は、本当にうれしく思いました。現在、地震の影響で休業しているようですが、復興した学食で、再び学生の笑顔が見られることを心から願っています。

頑張れ熊本県立大学、そして頑張れ県大生

前事務局長 仁木 徳子

熊本県立大学創立70周年、誠におめでとうございます。

さて、私が県大の事務局長を務めさせていただいたのは、平成27年4月から2年間でしたが、振り返ってみて懐かしく思い出すことが沢山あります。

大学で最初にお会いしたのは、長年に亘り県大の発展に貢献された古賀実学長でした。先生からは大学経営や大学教育の基本を教授いただくなど親しく交流させていただきました。

2年目の昨年4月、古賀学長から半藤学長に大学運営のバトンが引き継がれた矢先に、あの熊本地震が発生しました。県大も地震で被災しましたが、最大で2千人程の避難者を大学施設に受け入れ、また日赤の臨時救護所など後方支援の役割も担いました。新学長の下、教職員・学生が力を合わせ素晴らしい初期対応ができたのも、実践的な教育研究活動など県大の強みが活かされたからだと思っています。

日頃は本部棟の事務局に籠っていましたので、学生GP・もやいすと教育プログラムの成果発表会、公務員試験対策講座などに審査員や講師として呼ばれ、学生の皆さんと直に接する機会を頂けたのは事務局長冥利でした。

平成28年の日経BP社「大学ブランド・イメージ調査（九州・沖縄・山口編）」では、総じて知名度や評価が高い国立大・有名私大を相手に健闘し、県大は55校中13位、公立大学中1位にランキングされました。これまで地域を志向した教育・研究・地域貢献活動に熱心に取り組み、地域を担う有意な人材を多数輩出してきた県大、そして県内各地の現場（地域課題）に学ぶ県大生の活躍が県民の皆様から支持されている証だと感じました。

最後に、少子化や高大接続改革に起因した「2018年問題」、「2020年問題」など大学経営を取り巻く環境には厳しいものがありますが、県立大学におかれては、次の創立80周年に向け、「選ばれる大学」として更なる発展を遂げられんことを期待しています。“頑張れ熊本県立大学、そして頑張れ県大生。”